

女子の国はいつも内戦 辛酸なめ子

女子のタイプ

- ・派手系；可愛くておしゃれで運動神経が良くて遊び人オーラを漂わせている女子しか入れないグループ。
- ・ふつう系；成績も運動神経も普通の無難なグループ。
- ・真面目系；制服は校則で決まっている標準の着こなし。親孝行な真面目女子。
- ・カルチャー系；音楽やお笑い、文学など、同じ趣味の友達で結びついているグループ。
- ・オタク系；しゃべり方、挙動など、同じ空気を醸し出す同士が自然に集う。そこには諍いも揉め事もハブリ合いもない平和な世界。

ハブられた（仲間はずれにされた）

女子にとってヒエラルキーの重要な決め手となるのはおしゃれ威圧感。学校は制服なのに、おしゃれセンスはどこで発揮するのかというと、制服やジャージの着こなし、それから文房具などの持ち物と、ヘアスタイルです。

いつの時代も女子の人間関係は本当に大変

です。とくに思春期という、精神的に不安定で自意識過剰な時期は、その過酷さが極まっています。個性を出しすぎると変人扱いされ、おとなしすぎても軽んじられる……。ヒエラルキーの高いチームに入れてもいつ何時ハブにされるかわからない気苦労があったり、人生で最も対人関係のスキルが要求される時期と言っても過言ではありません。

みんな、表面的な人間関係の中でも、自分に注目してほしい、存在を認めてほしいのです。新しい携帯の着メロを誰よりも先にダウンロードしたり、話題についていくためドラマをチェックしたり、帰り道の経路を合わせたり、同じ塾に通ったり、涙ぐましい努力をしている人は多いのではないのでしょうか。

攻撃的な言葉で応酬（半分冗談）；「死ね」、「ウザい」

表面的な付き合いで常に不安にかられている派手系グループの女子は、他の人をいじめて一体感を得たりもします。しかし彼女たちは賢いので、いわゆる学校で問題になるようなハードな「いじめ」はしません。いじめの標的の言動を真似したり、聞こえよがしに笑ったりするくらいでは、「いじめじゃありませんよ」といくらでも言い逃れできますが、相手には確実に精神的なプレッシャーを与えているという、高度な心理戦できます。また、仲間外れにしたことを先生に注意されても「ハブってません。話すことがないから話さないだけです」と言い放ったりするそうです。こんなふうにしていじめている間は話題が保てるので、また飽きたら別の対象を見つける、というのを繰り返すうちに、クラスの雰囲気は殺伐としてしまいます。

プロム；アメリカやカナダの高校で学年末に開かれるフォーマルなダンスパーティー。  
ヒスパニック系；中南米のスペイン語圏からアメリカ合衆国に渡ってきた移民とその子孫。  
H&M；スウェーデンのカジュアルブランド

姫系；ピンクでリボンやハートのついた持ち物

女子の人間関係は、相手にうまく優越感を抱かせることが、友好関係をキープするポイントです。

キャビンアテンダント（旧名称…スチュワーデス）の世界；

忙しい現場だと殺伐とした雰囲気になってしまうこともあります。そんな時男性スタッフがひとりでもいると、空気が和らぐそうです。

「全員女性だと、適当が許されない感じになりますが、おじさんがひとりいるとおお

らかに『いいよいいよ』って言うてくれて、ほっとします。その空気が皆に伝わるんだと思います」

男性にまるで観葉植物のような癒し効果があるとは意外です。

「先輩にはキャピキャピしている人とサバサバしている人がいます。キャピキャピしている先輩は、三十歳過ぎても独身で女を捨ててないって感じで、私たちにも若いノリで恋愛相談してきたり、プライベートで会ったら「NIKIITA」女みたいなファッション（昼なのにサングラスで谷間もあらわなファッション）でギョツとしたこともあります。こういうタイプの先輩は、男に対しても女に対してもブリッ子で楽しそうなのはいいんですが、失恋したりイヤなことがあったりすると露骨に不機嫌になって私たちに当たったり、ヒステリックで感情が不安定なので困ります。それに三十五過ぎて結婚してないと性格的に問題あるんじゃないか……つて皆口に出さないけど思っています。クセの強い人が多いかもしれません。それにひきかえ、結婚している先輩は心に余裕があってサバサバしているので付き合いやすいです。ああいう先輩になりたいねってよく同期と話しています」

キャビンアテンダントの世界はコンサバで、結婚願望が強いようでした。他の業界（マスコミとか）には三十五すぎで独身の女性なんてたくさんいますが、航空業界では珍獣扱いになってしまうとはシビアな話です。

女子の派閥のもめごとが起こってしまうのは、結局ヒマだからかもしれません。キャビンアテンダントのように、恋に仕事に忙しければ、女同士の人間関係には悩まされないのです。

法令線；小鼻のあたりから口の横まで、たてに入るシワのこと。老けた印象を与えると言われる。

公立の学校は、生命力勝負の傾向にあるようです。ヒエラルキーのトップに立てるのは、スポーツ万能で明るくておしゃれな女子。ヤンキー系の強い男子と仲が良ければさらに無敵で、威圧感を漂わせ、クラスを仕切ることができます。公立校で人気者だった人は、大人になってからも貫禄を漂わせているのが特徴です。私立出身の軟弱女子などは、つい言いなりになってしまう気迫が眼差しに宿っています。いっぽう、公立での友情は、もともと家庭環境や学力がバラバラだったり、社会に出て引越すと地元の付き合いがおろそかになったり、大人になってからは一気に疎遠になってしまいがちです。

女子の取材でもうひとつわかったのは、何歳になっても優越感に浸りたいのは、女の性。よっぽど達観した修道女的精神の持ち主でもない限り、女性は常に心の中では他者と自分を比較し、相対的に自分のポジションを確認しているのです。お金持ちと付き合っているとか、お得な買い物できたとか、映画に詳しいとか、子どもがいい学校に入ったとか、肌が若いとか、体脂肪率が低いとか、あらゆることを誰かと比べ、優越感のネタにしようとしているのです。セレブになりたい女性が多いのも、セレブが優越感の権化だからでしょう。といってもセレブマダムの生態を観察する限り、彼女たちが本当の幸せで満たさせているとは思えないですが……。